

東白川村 美しい村づくり 委員会

第69回

○場 所：五加交流サロンほほえみ

○時 期：令和5年1月25日 19:00~21:00

○参加者：委員5名 一般4名 行政担当2名

【今年度委員会の目的】

①住民参加の場 ②交流・対話の場 ③学びの場

「持続可能な美しい村」を実現するため、「住民と行政で共に学ぶ」をテーマに、「学びの場」と「対話の場」を設け活動しています。

第1 村長あいさつ

本日は大寒波でとても寒いなかご参加ありがとうございます。場所によっては一日中凍結しているところもあります。昔は、平地区の中川原に氷室があっただけです。氷室は真冬にとった氷を夏まで貯えておく室のことです。

現在、令和5年度から令和12年度までの、第6次総合計画を策定しています。この総合計画では、「人」人口対策を第一に置き、全ての事業のベクトルを人口対策に集中させます。そして、規模の適正化を図ります。人口3,000人設計のサイズから人口2,000人設計にリサイズしていきます。例えば、小学校と中学校の校舎をみても、現在やこれからの生徒数に対して規模が大きい状態なので、適正規模化に取り組まなくてはなりません。もちろん、ハード面だけではなく、子育てや教育もとても重要です。また、生涯現役や健康寿命、人生100年時代とうたわれているように、全ての人々が、生涯現役で元気に安心して活躍できる村づくりに取り組み

ます。

SDGsの視点でも、自然を守り資源をいかす村づくり、特にエネルギーの地産地消の研究もしていきますし、近年の異常気象や自然災害からも防災も含む、暮らしやすい村を目指していきます。みなさん、移住された方々のご意見は大切だと考えています。まもなく、パブリックコメントが始まりますので、ぜひご覧になってください。

第2 話し合い会 ～これからの官民協働の美しい村づくり③～

今回で美しい村づくり委員会は、6年間、自主参加を大切に交流の場、対話の場、学びの場、やってみる場、にチャレンジしてきました。コロナ禍も含む6年間には、成長、停滞、縮小を経験し、次のフェーズへのつなぎとして、前年度から「学びの場」を6回開催してきました。新しい参加者の方とも楽しく変化することを目指し、これからの住民主体の地域づくりについて、官民協働の活動について話し合いを行いました。

体験・学びのイベントについて、来年度から取り組むことができるよう、今まで出てきた意見をさらに具体的にしていく予定でしたが、今回は、体験・学びのイベントのイメージを共有するところで終わり、参加者の近況報告（雑談ワークショップ）を行いました。（1回目の体験イベントは朴葉寿司づくりにすることとしました。）

第3 わたしの近況報告

- ・植物から糸をつむぎました。一緒に作業してくれる方募集しています。
- ・地域の左儀長に参加してきました！
(昔は子供が中心になって行っていたが、今は大人が行っている。)
- ・田んぼの畦塗りしています。田んぼ仲間募集中です。気軽に顔だしてください。収穫量を増やすことより、いろんな人と仲良くなることを大事にします。
- ・学校に芸術などを中心に学ぶクラスがあるといい。

- ・お餅が苦手ですが、左儀長でふるまわれたお餅はとてもおいしかったです。
- ・都会の方から、村で山菜採りをしたい！と頼まれます。
(体験イベントに「山菜採り」を追加)
- ・間もなく中津川市で飲食店を開きます。平日は食品加工所やイベント会場として利用します。

〈前回意見だした体験メニュー 付箋に投票 (一人 2 票)〉

- ・獣肉解体 (6 票)
- ・林業。明るい森づくり (5 票)
- ・田んぼや茶畑の石積み (3 票)
- ・しめなわ作り (2 票)
- ・門松作り (2 票)
- ・農道具の使い方 (1 票)
- ・茶について (1 票)
- ・史跡めぐり (1 票)
- ・氷瀑づくり (1 票)

第 4 閉会

【次 回】 「話し合い会」 テーマ：これからの官民協働の美しい村づくり④

日程：2月24日(金) 19時～21時

(事務局説明)

～目的・キャッチコピー～

- 「東白川村の魅力的なモノ・コト・ヒトが『つながる。』」
- 「東白川村の未来を考え続けるために、もと東白川村を『学ぶ。』」
- 「東白川村それぞれの土地で培われてきた暮らしを『学ぶ』
そして『想いをつなぐ。』」
- 「一人ひとりの暮らしの楽しみから始めて、村の未来を『育てる。』」
- 「村でどんな楽しい暮らしが実現できるか、世代も立場も地域も
超えて、みんなが『考え、発見、実践する場。』」
- 「村全員が先生で、村全体が『教室だ!』」

「暮らしの編集室」(体験 学びのバト)

- 村の方から教えてもらう。
- 私たちで 企画・運営・情報発信。
- 楽しく! 小せく!
- 村の暮らし、里山の暮らし、持続可能性
- 大人、子ども、若者、村人、移住者、地域外の人

年 / 6回くらい

村の行事に参加





以上